

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070801800		
法人名	有限会社 D&Mコーポレーション		
事業所名	グループホーム いやし屋本舗		
所在地 (電話番号)	〒813-0032 福岡市東区土井1-25-7 ケアレジデンス青葉1F (電話) 092-691-1036		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年8月3日	評価確定日	平成21年9月2日

【情報提供票より】(平成21年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 11人 非常勤 0人,	常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独		新築 / 改築	
建物構造	鉄筋造り			
	6 階建ての		1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要 (8月3日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.89 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ホームケア クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

土井駅近くに立地する6階建ての高齢者専用マンションとデイサービスの複合施設の1階に、「いやし屋本舗」がある。落ち着いた家庭的雰囲気の中で、職員の目が良く行き届く間取りになっている。開設当初から健康づくりに取り組み、そのためのびわ茶や手作りのヨーグルト、施設内厨房で作られるバランスのよい食事で栄養管理や健康管理がされている。また、栄養士の指導のもとに、パン作りやおやつづくりをしたり、体操や脳トレトレーニングなども工夫している。複合施設のよさが生かされている特徴として、グループホームのドアを出て、廊下つづきに沿って歩くと、地域の方々の集まるデイサービスがある。入居者はレクリエーションを地域の人と一緒に楽しんだり、個別の対応も行なわれている。畳が敷き詰められた廊下など、全体的にこじんまりとした中で、入居者が安心して過ごせ癒しを感じる1ユニットのグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価のあとに、見直しのための計画表を作成し、職員全体で取り組んでいる。施設長は職員からの活発な意見を積極的に取り入れ、地域の方々との関わりを大切に、施設の行事案内を出したり、案内をいただいた町内や老人会の行事に参加したり、入居者が喜ばれることを積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、全員で話し合い検討し、評価の意味と重要性をよく理解し取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>家族会の代表、民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員などの参加により、2ヶ月に1回開催している。施設内の入居者の状況報告や委員からの情報提供によって、地域の行事に参加したり、ホーム内の行事案内を出して入居者との交流をしたりするなど、入居者の活動範囲を徐々に広げること成功している。今後の取り組みの課題としては災害訓練などに地域の協力体制を得て、入居者や家族の更なる安心に繋げることに期待する。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>意見箱には、今まで家族の意見は1度も入ったことがない。家族との会話の中で意見をいただくことがあるが、聞き流さずに記録ノートを利用し、職員全員でミーティングで話し合い、解決していくようにしている。苦情処理マニュアルは、誰にでもよく見えるように壁に貼り付けてある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方々に気軽に立ち寄っていただけるよう案内を出したり、積極的に地域の行事に参加したりしている。グループホームのだけでなく、地域の方が集まるデイサービスに合流してふれあい、時には一緒に外出したり、老人会のランドゴルフの応援に行ったり、地域の祭りや関連施設の運動会などにも積極的に参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「九人九色の暮らしをサポート」を理念とし、入居者の一人ひとりの気持ちを大切に捉え、地域との関わりや交流を継続できるよう、施設長以下職員全員で取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、九人九色の個性を大切にす個別ケアについて意識を持ってミーティングでの話し合いや意見交換を行い、職員全員で取り組み努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会のグランドゴルフの応援や地域のお祭りに参加したり、ホーム主催のソーメン流しに地域の方に参加していただいたりするなど、積極的に交流している。デイサービスを利用しておられる地域の方々とも合流して、馴染みあった交流が行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることに関し前向きに考えており、新たな視点を取り入れようと同一調査機関ではなく、毎年違う調査機関に依頼している。全職員は外部評価のことを理解し、前回の評価後ケアプランの見直しなど、職員全体で課題に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表者、民生委員、町内会長、地域の医師、地域包括支援センターなどの参加により2ヶ月に1回開催されている。より多く出席してもらえるよう、参加者の都合によって曜日を変更するなど、柔軟性を持たせている。会議ではホーム内の報告の他にも、地域からの情報提供をいただき、地域の行事に積極的に参加するなど交流の場を広げることにもつながっている。時期にあった感染予防の勉強会も行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	"ホームだより"や運営推進会議の案内などを行政機関に出しているが、サービスを提供する介護職員や入居者から直接話を聞いたり、相談に応じるなどの市町村の制度は導入されていない。		「介護相談員」の導入によって、市町村との連携をさらに深め、入居者へのサービスの質の向上に結びつくよう今後の取り組みが望まれる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	成年後見制度を利用されている方がおられる。制度の理解については、研修に参加した者が研修報告書を作成して伝達研修を行い、全職員が学ぶ機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホーム便り」等を発行し、全職員の写真をプロフィール付きで紹介している。入居者の暮らしぶりも掲載(家族の同意を得ている)したり、写真や特徴をつかんだ似顔絵で毎月のイベントのお知らせなども、手紙で報告されている。ご家族には面会時にその都度報告を行い、遠方にお住まいのご家族には、電話連絡を定期的に行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱に意見が入ったことはないが、ご家族との会話の中からの意見を大切に取り扱い、ミーティングで話し合い、記録に残し改善している。苦情や意見などを反映させるために、苦情処理マニュアルは、みんなが見える場所に掲示されている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職による入居者への配慮として、複合施設のデイサービス「いやしの杜」の職員との行き来を日常的に行っている。馴染みの関係作りにより、入居者が混乱せず、安心して介護が受けられるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	複合施設全体の取り組みとして人権を尊重しており、車椅子で勤務されている方もおられるなど、個々にあった仕事を提供されている。職員の様々な意見を積極的に取り入れ、ケアマネの資格を取る職員の応援なども行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長の指導の下、入居者、ご家族への接遇、言葉遣いや対応の仕方など人権教育などに取り組んでいる。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には参加したい研修は申し出るよう呼びかけている。新人職員には先輩職員がついて実践研修を行う方法がとられている。職員は毎年、年末に1年間の反省と来年の目標を記入し、スキルアップを目指し施設長や管理者と面談する場が設けられている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設8施設と合同で、運動会を開催している。年々参加施設が増えており、練習を他施設で行うなど交流も盛んである。運動会やレクリエーションを合同で行う上で、他施設との情報交換もよく行われている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスがいきなり開始されることはなく、デイサービス「いやしの杜」のご利用者から、グループホームへの入居者となる事例が多い。入居前から職員との顔なじみの関係づくりが行われている。入居の日が誕生日だった方には、誕生会のお祝いの席が設けられ、本人も家族もホームの配慮にとっても喜ばれ安心された事例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は介護される一方的な立場ではなく、洗濯物の干し方、たたみ方、料理の材料の切り方などを職員が教えてもらうなど、その都度の感動を職員は共有しており、入居者の生きる力を引き出し、見守り、共に支えあう関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者全員にアンケートを書きいただき、一人ひとりの思いを把握している。センター方式によるアセスメントを一部取り入れ、普段の何気ない行動や会話から職員が情報を把握し、サービスの計画に活かすよう努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の情報は職員みんなで共有している。ミーティングの場で意見交換しながら提案したことがケアに取り入れられるなど、一人ひとりの個別の計画が作成され、介護計画づくりにはチームで取り組んでいる。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院や退院後の身体状況の変化が見られたときや、職員の提案で見直しが必要と判断された時に行われる。個々の介護計画はきちんと立てられて作成日も記録されているが、計画はいつまで有効なのか、長期目標と短期目標の期間がいつまでなのかを明記していない。		計画は一人ひとりに合わせてしっかり立てられているが、いつからいつまでの計画であるかを記して、長期目標と短期目標の期日を明確にし、又評価する時期を一致させることが望まれる。期間を明記し分かりやすい計画書にすることで、家族への説明も具体的に伝えやすくなるのではないだろうか。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに泊まっていたり、一緒に食事をしたりと、温かいもてなしがされている。遠方からのご家族にも、寝食を共にしていただくなど配慮されている(その場合食事代のみ実費)。空きベッドがあるときは、ショートステイも受け入れる体制がとられている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診は、ほとんど職員が付き添っての通院介助を行っている。ホームには協力医院からの往診も行われている。受診結果はご家族にも報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会を通して、ターミナルケアの話し合いが行われている。ご家族のアンケートなどでも確認をしているが、同意書はまだ作成されていない。		現時点では、ご家族の方々へは口頭での同意なので、重度化や終末期(ターミナルケア)についてのご希望があれば、書面での同意書をいただき、その場で対応に困らないよう、職員間の統一した方針と処遇方法、家族の協力体制、マニュアル作成など整備が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋のドアを閉めたくないと言われる方には、カーテンを取り付けるなどしてプライバシーを確保している。個人ファイルなどは事務所のキャビネット内に保管している。年賀状や“おたより”などに、写真を掲載する際は、前もってご家族にも同意をいただいている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一番風呂の好きな方、外出の好きな方、リハビリを頑張る方など、理念にそった一人ひとりのリズムに合わせた支援をしている。その日に着る洋服選びやネイルアート(マニキュア)を職員と一緒にするなど、入居者のおしゃれも希望に沿って支援できている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房からの配食が行なわれているが、月に2回は作食会で職員と入居者が一緒に料理を作って楽しんでいる。栄養士が指導に入って、パン作りやおやつ作りも行われている。職員の巧みな誘導により、食事の注ぎわけや食後の片付けなど、無理のない範囲で一緒に行うことができている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を希望される方が「今からお風呂に入ろうか」などと言われるので、時間にとらわれず入浴の支援をしている。お風呂に入る順番にこだわりのある方には、特に配慮しながら支援をするなど、個々の対応を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除機をかける人、洗濯物をたたむ人、みんなで参加しているデイサービス“いやしの杜”のお絞りたたみをして届けに行く役割の人など、職員の上手な誘導によって能力に応じた役割を分担し、協力し合い穏やかに過ごしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の好きな方には職員が買い物に誘い、外に出かけ気晴らしができるよう支援を行っている。自分の役割のように自ら荷物を持ってくださる入居者もおられるなど、お互いに助け合っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。玄関は居間からすぐ見える場所なので、職員の見守りで対応できている。帽子をかぶって玄関の扉の前に立たれる方に対しては「もう少しして出かけましょうね」と優しく誘導されている。デイサービスに続く扉には、一応ブザーが取り付けられている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、施設内合同で、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。スプリンクラーも設置されている。「いやし屋本舗」独自の避難訓練は実施されていない。		職員対応の訓練は行われているが、近隣の方々の協力が得られていないので、運営推進会議などに働きかけ、協力者を募り、協力してくださる方を含めた連絡網の作成、備蓄品の準備等も検討し、より一層の安全対策に取り組むことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	発熱したときは個別にイオン飲料を準備し、医師の指導の下にイオン飲料水を1は摂取していただき、飲めない方にはイオン飲料でつくったゼリーを食べていただくなどして、摂取量を確保している。ホームのバイタルチェック表には、食事量、水分摂取量、排便、排尿まで、職員一同よく分かる記号を使って記録されている。年間を通して、体重、身長を記録し、健康管理に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に明るく清潔感が感じられ、空調の風は直接当たらないように工夫されている。廊下の両脇は居室であるが、廊下には畳が敷き詰められソファなども置かれ、気持ちの良い癒しの空間になっている。朝の集いはそこで行われている。入居者は、自室に閉じこもることもなく、リビングやソファでくつろいでいる。外出好きな方のためにテルテル坊主が飾ってあったり、入居者が活けられた季節のお花が飾られている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ、思い入れの深いもの(仏壇など)が置かれている。部屋にはベッドが置かれこじんまりしている。室内の畳の感触にとっても温かみを感じることができる。どの部屋も個性的で明るく清潔である。居室の掃除は、担当職員が責任を持って行い、清潔を保持している。		